

令和元年度第2回北区地域公共交通検討会議 質疑概要

発言者	要旨	回答/見解
はまなす「地域交通」研究会事務局長	表10(8頁)について、回答者の抽出方法と詳細を教えてください。調査対象によっては、回答内容が大きく変わってくる場合もあるため、明記すべきと思う。	(事務局) 表10は平成30年3月の本市「交通環境に対する市民意見調査」から引用したものだ。回答者の詳細等について、修正案にて、本冊子に追記する。
同上	基本方針③ア(19頁)について、「住民バス団体の立ち上げ支援」とあるが、具体的な検討状況を教えてください。また、木崎地区の自治会長らから、当会对して、おらってのバス増便要望が寄せられている。当会は主に松浜地区を中心に活動している団体のため、木崎地区の要望に答えきれない部分がある。当会では、同会長らに住民バス団体を立ち上げてみてはどうかと呼び掛けているが、今のところ、反応は得られていない。	(事務局) 現時点では、地域が自ら新しく住民バス団体を発足させたいという声は挙がっていないのが実情だ。 今後、区内の幅広い地域に呼び掛けて勉強会の開催等を検討し、住民バス制度を知ってもらう機会を設けたいと考えている。はまなす「地域交通」研究会には、講師としてぜひ協力いただきたい。 裏面に続く→

<p>はまな す「地域 交通」研 究会座 長</p>	<p>表9(8頁)について、市内高齢者の運転免許保有率が増加傾向にあり、今後もその傾向は続くものと考えられる。一方で昨今、高齢者の運転免許返納が促進されているが、北区では返納のハードルが高いのが現状だ。おらってのバスでは、平成30年度から「シニア半わり」制度を導入しているが、これだけでなく、北区独自に施策を検討してみてもどうか。自分のライフスタイルが定着するまでは時間を要するため、単年でなく数年スパンで長期実施するのが望ましい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>北区生活交通改善プランのもと、利用しやすく持続可能な公共交通ネットワークの形成を目指していく。ご意見は、その際の参考とさせていただく。</p>
<p>新潟市 消費者 協会豊 栄支部 長</p>	<p>各地域の特性を踏まえて、自動車に頼らなくても生活できる交通施策であってほしい。自動車は購入時に費用が掛かるが、タクシーは乗車都度に費用が掛かり自動車より割高に感じてしまう。また、知人のなかには、高齢のため運転に不安を覚え、免許を返納し、移動手段として自転車を活用するようになった事例があるが、不便な面があるようだ。</p>	
<p>新潟市 ハイヤー・ タクシー協 会専務 理事</p>	<p>タクシー業界としても、高齢者向けの施策を行っているところだ。「高齢者運転免許証返納サポート事業」として、対象者の運賃を1割引にしているが、これはタクシー事業者の負担で行っている事業だ。</p> <p>市は、平成30年6月末で終了した、運転免許返納者への交通券(タクシー券、バスICカード「りゅーと」)給付の代替案として、上記割引事業を提示しているが、タクシー事業者の負担が大きくなっていることを認識してほしい。</p>	
<p>同上</p>	<p>市では、「シニア半わり」をはじめ路線バス利用者への割引制度はあるが、タクシー利用には整備されていない。以前は、タクシーは公共交通である旨の認識は薄かった。それが改善されて来たものの、実態として制度に反映されていない。</p> <p>今後、さらに高齢化が進む中で、路線バスと同等以上にタクシーが求められ始めている。市は、タクシー利用者も含めた包括的な交通割引制度に取り組んで欲しい。</p>	<p>以上</p>